

地域交流活動について

薬学部 石川さつき (茨城キリスト教学園高等学校 出身)

1年次を過ごす富士吉田キャンパスは自然に囲まれており、世界遺産としても有名な富士五湖や富士山が近くにあるため、季節の移ろいを身近に感じることが出来ます。また、ここでは「富士登山競争」「ありんこ祭り」「Mt.Fuji河口湖ジャズフェスティバル」等この地域の特性を生かした様々なイベントがあり、そこにボランティアとして参加することで地域を知る機会となります。例えば、この地域にある健康科学大学、山梨県立ふじざくら支援学校などの学生や様々な人々との交流を深めることができます。

私は7月に行われた富士登山競争に救護ボランティアとして参加し、地域の病院職員の方や他大学の学生、多くのランナーに出会うことができました。また、11月に行われるクリスマスパーティーにはサタデークラブの皆さんを招待し、より楽しんでもらえるように地域交流部門で企画内容を試行錯誤しました。昭和大学では、このような機会が多く与えられ、自分から積極的に参加することで様々な人と出会うことができます。そして、自分の視野を広げることができます。

昭和大学ならではの地域交流を通じて、人や地域との関わりについて考えてみませんか。

※ありんこ祭:富士吉田市内にある障害福祉サービス事業所ありんこが主催する秋祭り。
※サタデークラブ:地域の方々や障がいのある児童・生徒とが互いに理解しあうため、両者が関わる機会として、隣町の富士河口湖町にある山梨県立ふじざくら支援学校のPTAボランティア部が主催する活動。



部活紹介

“華道部”

華道部部长 長谷川真紀子 (生物学担当)

華道部は平成23年に薬学部学生3名の強い思いにより設立されたクラブで、今年5年目を迎えます。特徴は個人で作品を作成するだけでなく、広く地域の方々や病院を利用する方々にも喜んでいただけるようなボランティア活動も含まれることです。

クラブの活動は多岐にわたり、個人では技術の向上をはかるためテキストを参照しながら練習を行い、全体では旗が岡祭に合わせ華道部展の開催や、難病のお子様を持つご家族が宿泊される「マクドナルドハウス」へのフラワーアレンジメント作品の提供などを行っています。特に施設のの方々やご父母の皆様には大変喜んでいただけ、部員たちの活動の励みになっています。

1年次は経験者も未経験者も関係なく、お花が好きであれば活動することができます。寮祭やオープンキャンパス、ハロウィンパーティーなどに、個人の作品や共同で制作した作品を飾っています。4学部の学生が参加し2年次以降も合同で活動することができる、ゆったりと落ち着いた雰囲気のあるクラブです。

お花にいやされ、自分を見つめる時間も持てる華道部の活動を通して、「富士吉田での特別な1年」を素晴らしいものにしてはいかがでしょうか。



富士北麓で医療連携を体験しよう!

和歯科クリニック院長 渡邊 和俊 (歯学部6回生)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんは、昭和大学に入学することで、医療人としての第一歩を踏み出しました。

1年次には初年次体験実習があり、医療現場を体験することができます。今年度からは、高齢者訪問の実習も加わり、地域での医療のあり方、連携のあり方を見ることでしよう。

地方の歯科診療所でも、外来・在宅診療において全身を診る治療体系が必要とされています。私の診療所でも実践していますが、そこには、薬を通して全身を診る薬剤師としての家内の力があります。昭和大学薬学部を卒業した家内は、薬剤師として、ケアマネジャーとして、地域包括支援に頑張っています。

皆さんも、実習を通して、一職種のみでは患者さんを治すことができないことを体験してください。

この体験が、これからのチーム医療の担い手としての皆さんの基礎になることを期待します。



国際交流について

新しい出会いと貴重な体験

歯学部 大塩 葵 (光塩女子学院高等科 出身)

PSUサマープログラムは私にとって深みのある体験をもたらしてくれたと感じています。

私は今回初めてアメリカに滞在しましたが、日本とは大きく異なる文化や慣習に初めは戸惑いながらも次第にその魅力に惹かれていきました。アメリカ西海岸にあるオレゴン州のポートランド州立大学での語学研修は、1ヶ月弱と短い間ではありましたが、現地の学生との交流や授業など、毎日英語に囲まれた環境で自分自身をいかに表現していくかが重要であると感じることができました。ホストファミリーとの生活は常に刺激があり、同時に愛情を感じられたと思っています。

また、オレゴン州での医療施設見学は、今まで日本で暮らしてきた私の医療に対する考え方を大きく変えたと感じました。サマープログラムには学習だけでなく様々なアクティビティがあり、雄大な自然とのふれあいやボランティア体験などによってアメリカで新たな発見をすることができました。

これらの濃厚な経験を通じ、英語を学ぶだけでなく、何事にも挑戦し様々な考え方ものごとを捉えられる医療者となれるよう、継続して努力していこうと思っています。



編集後記

新しい年を迎え早3か月が過ぎ、春の訪れとともに新年度が始まりました。1か月前までは静かな校舎も、新入生を迎えるとともに賑やかな雰囲気になります。

さて、今号の広報誌には、昨年寮を築立った先輩たちや富士吉田で開業しているOBの先生から多くのメッセージが寄せられました。新入生のみならずは初めての寮生活に当たり、期待と不安で胸がいっぱいかと思えます。都心にはない自然豊かな世界遺産のふもとで地域との触れ合いを感じ、また医療人としての基礎を学んでいただきたいと思えます。

次回、第25号の発行は7月に予定しております。今後とも「白樺・百合」をよろしく願います。編集 出口 太一

白樺百合

昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第24号 2015.4.6発行

発行責任者 富士吉田教育部長 小出 良平
編集責任者 富士吉田教育部広報委員 倉田 知光
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403



富士吉田教育部 前田昌子 撮影

ようこそ 富士吉田キャンパスへ

学長・富士吉田教育部長 小出 良平

寒かった冬も明け、待ち遠しかった春が、今年も富士吉田キャンパスに1年生の諸君と一緒にやってきました。富士吉田校舎の教職員一同、皆さんを心より歓迎いたします。

ここ富士吉田キャンパスは霊峰富士山の北側、標高900mに位置します。4月に入寮してから、しばらくは朝晩に暖房が必要です。

さて、将来医療人を目指している諸君は、第1学年をここで過ごします。ここは、4人1部屋での全寮生活です。この寮は、単なる生活する住居ではなく、医療人を目指す諸君が、身近な相手に対する思いやりの心を培い、お互いの考えを理解し、将来チーム医療を実践していくためのコミュニケーション能力を高める教室でもあります。

この全寮制度は、昭和40年(1965年)に始まり、今年で50年目を迎えます。私もこの寮の3期生で、女子学生も富士吉田で過ごすようになった最初の学年です。当時は医学部、薬学部の300名で、男子寮と女子寮(現在のSGSセンター)の2寮でした。その後、本広報誌の名称にもなっているように、男子寮を白樺寮、女子寮を百合寮と名付けて、現在もその名称は引き継がれています。これら寮をはじめ、富士吉田キャンパスの施設、整備には、多くの卒業生が後輩のためにご寄付された資金を使わせていただいています。次年度以降に入学する皆さんの後輩のため、また昭和大学の伝統を繋げていくためにも、施設や備品を大切に使用して、来年の1年生に引き渡してください。

私は昭和大学病院附属東病院から富士吉田キャンパスに赴任して4年目になります。病院施設における日常の行動目標のひとつは5Sです。5Sとは整理、整頓、清掃、清潔、習慣です。病院では質の高い医療の提供だけでなく、医療事故や院内感染の防止のために5Sを励行しています。これをもとにして、寮生活の5Sを整理、整頓、清掃、清潔、寝と決めました。昨年同様に今年も5Sを富士吉田キャンパスの目標とします。一年次から医療人の素養を身につけていただきたいと思います。

また、昨年より富士吉田キャンパスは、敷地内禁煙となっています。平成27年度からは旗の台、洗足、横浜キャンパスも敷地内禁煙となります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

いよいよ始まる昭和大学の全寮生活は、人生の最もよい思い出の一つになるであろうことを確信しています。大いに学習し、クラブ活動を楽しみ、有意義な1年間になることを祈念します。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮(男子寮)」「百合寮(女子寮)」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をとおげて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

富士吉田での実習について

歯学部 田中 佑樹 (森村学園高等部 出身)

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。医系総合大学である昭和大学の学生になったみなさんはこれから約1年間、富士吉田で新しい仲間たちと生活・学習を共にすることとなります。1年間、長く感じるその響きにすこし不安を覚えている人もいるかもしれません。しかし、富士吉田キャンパスでは数多くの有意義な実習が計画されています。

サイエンス実習では、実際にヒトから得られた標本サンプルを使用させていただいたり、医薬品に含まれる成分を精製したり動物解剖を行ったりと昭和大学ならではの实習がめじろ押しです。そして、夏休

みの後には「初年次体験実習」が待っています。施設実習に病院実習、歯科医院見学実習などの学部別実習……とても忙しい実習期間ですが、自分の「医療を志す学生」としての考え方が変わるくらい有意義な実習となることでしょう。

長いようであつという間の寮生活、たくさんの仲間と充実した楽しい1年を過ごしてください。



ボランティア活動を通じて

医学部 高野 英実 (鷗友学園女子高等学校 出身)

1年次を過ごす富士吉田市は日本有数の観光地であり、キャンパス周辺では一年を通して様々な地域イベントが行われています。また、初年次体験実習でお世話になる「山梨県立ふじざくら支援学校」や「社会福祉法人ありんこ」などといった施設でも、施設の方や施設利用者の方たちによるイベントがあります。1年次は、こうした様々なイベントにボランティアを通して参加することができます。

私は、実際に「フジコレ」や「Mt.Fuji河口湖ジャズフェスティバル」などに参加しました。物販や賄い作りなどのお手伝いといった普段あまりできない経験をする中で、ほかでは得ることができない達成感を味わいました。また、様々な方と関わらせていただき、富士吉田の新たな魅力に気が付くこともできました。イベントが終わったときには、富士吉田がもっと好きになっています。

みなさんもボランティアに参加し、富士吉田での生活をより充実したものにしてみてはいかがでしょうか。



※「フジコレ」:「産業と教育」をスローガンとし北口本宮富士浅間神社の参道で富士吉田の織物生地を使用したファッションショーの開催と飲食店や物販を中心とした観光と産業を内外に発信するイベント。
※「Mt.Fuji河口湖ジャズフェスティバル」:河口湖円形ホールを中心に毎年開催されているJAZZイベント。



寮生活について

薬学部 上當 明德 (神奈川県立逗子高等学校 出身)



富士吉田での寮生活は私達にとってけっして忘れることのない大切な一年間となりました。入学当初は初対面の人と共同生活を行うことに不安を感じていました。しかし、蓋を開けてみれば、周りの人は愉快な人ばかりで、同じ部屋のメンバーはもちろん、フロアの人や他のフロアの人など学部を超えたいろいろな友達と一緒にごはんを食べたり、運動したり、お喋りしたり、一緒に誕生日を祝ったりと毎日楽しく生活することができました。試験前にはみんなで集まって、お互いに教え合い勉強することで理解をより深めることができました。

寮祭などの行事でもフロアや部活動、コンパなど様々なグループが模擬店やバンドなどをする中で、寮全体が一丸となってイベントを盛り上げることができました。

富士吉田での生活はみなさんにとって特別な経験になることと思います。ぜひ様々なイベントに積極的に参加して、この1年を思いっきり楽しんでください。

※コンパ、部屋コン:別掲「部屋コンの思い出」参照(コンパ、部屋コンは同義)

講義について

保健医療学部看護学科 小山 峻平 (神奈川県立鶴岡高等学校 出身)

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。これから約1年間過ごす富士吉田キャンパスでの寮生活に期待や不安で胸がいっぱいだと思います。なかには、どういった講義や勉強をするのだろうかとか楽しみにしている人も多いと思うので、これから1年次の講義についてご紹介しましょう。

1年次には教養科目など、全学部と一緒に受ける講義が多くあるという、富士吉田キャンパスならではのカリキュラムがあります。それによって他学部の学生と交流することができます。同じ講義を受けるだけでなく、様々な学部で構成されたグループで集まり、互いに話し合うことが多くあるPBLやコミュニケーションといった授業では、他学部の友達を作ることができます。私はこれらの講義を通してコミュニケーション能力や相手のことを考えた発言などを学び考えるきっかけを得たと思います。また、他の学部の学生がどのような考えを持っている

のかなども知ることができる貴重な場です。

このように、講義のなかで他学部の人と仲良くなる機会があるのは1年次の富士吉田キャンパスならではの場だと思います。富士吉田での講義や勉強に不安があると思いますが、寮のなかで教え合ったりして楽しく乗り越えることができます。1年間という長いようで短い寮生活を仲間と共に楽しんでください。

※PBL:Problem based learning (問題基盤型学習)の略
1年次の学部連携PBL(Problem based learning)チュートリアルによる問題解決型学習は、将来、医療人として、自ら問題を発見し解決していく能力を身につけるために、既存の講義型学習ではなく、種々の事例や課題をもとに、学ぶべきこと、自らに不足している知識や技能を自ら発見して習得していくための技能を身につけるための授業形態。また、少人数教育を学部連携で実施することにより、将来、患者中心のチーム医療を実践するために必要な人間関係の基盤を築くことを目的としている。

寮祭、ハロウィンパーティー、クリスマスパーティーの楽しみ方

医学部 渡邊 晋平 (世田谷学園高等学校 出身)

イベントが行われるので、寮祭にはない楽しさがあります。

そもう一つは、実行委員になるということ。僕は多くの皆さんに全てのイベントの実行委員を経験して欲しいと思います。確かに忙しく大変な時期もありますが、多くの寮生と知り合いになり仲良くなれるいい機会です、なによりも達成感を味わえます!こんなこと

ができるのは大学生活の中で1年生の時だけです。寮祭は6月に行われるため遅くとも5月の初めから実行委員が動き始めます。この時期に仲の良い寮生はおそらく同じ部屋コン、寮、フロア、講義・実習の班の人くらいだと思います。そんな時期に実行委員をやることによってそれらの人たちはもちろん、その他の人と

も知り合え仲良くなれます。こうした学生の創るイベントは新たな交友関係を築くだけでなく、それまでに築いてきた人たちと一緒に仕事をすることによって、より一層仲良くなることができる機会でもあります。

ぜひこの二つの方法を使って思う存分楽しみ、昭和大学ならではの寮生活の中で素晴らしい思い出を作ってください!



部屋コンの思い出

歯学部 庄子 瑠芳 (桐蔭学園高等学校 出身)

大学生活一年目を他学部の人と一緒に寮で過ごすという経験はなかなかできることではありません。この一年間は私にとってとても充実したものとなりました。

入学式を迎えるまでは初めての寮生活ということもあり緊張と不安でいっぱいでした。寮に着くと同じ部屋になった他学部の人と顔合わせをすることになりました。私は少し人見知りであるということもあり、最初はぎこちない会話が続きました。ですが、同じ医療人を目指しているということもあって、すぐに打ち解けることができました。また、

コンパ制度といって男女あわせて5~6部屋が一人の指導担任のもと一つのグループとして形成される制度があり、隣の部屋の人や全く知らなかった男子とも仲良くなることができるので、どんどんと友達の輪が広がっていきました。

他の大学ではあまり見られない寮制度を体験することで、他学部の友人を持つことのありがたさを学び、これが将来のチーム医療に繋がることを実感しました。